

# 私たちの町の文化財

私たちの町の文化財 池のほとりの不思議

## ■第9話 百塔の復元

池辺寺の根本御座所(中心)は百塚地区にある百塔という石積みです。調査当初、塔は崩れていて石がゴロゴロ転がっている状況でしたが、選別しながらどかすと、一辺が2.4mの正方形、石積み同士は2.4mの間隔で、東西に10列、南北に10列の計100基が整然と配置されていることが確認されました。石積みの外側は面をそろえて並べられています。

1基だけ下部の確認のために発掘してみました。しかし、掘り込みや何かを埋めたような痕跡は見つからなかったことから、墓ではないようです。石積みの中からは灯明皿が重ねられた状態で出土していますので、塔の上、もしくは周辺で明かりを灯し万灯会(※)(まんどうえ)を催したのでしょうか。

平成27年度に完了した史跡整備に伴い、この塔の復元を行っています。石積みはピラミッド状に積まれ、頂部には出土品を模造した塔の部材が組みられています。ただし塔の数に対して部材の出土数が少ないため、百塔全てがこの通りではなかったのでしょうか。

百塔が何のために造られたのかは不明ですが、100という数、整然と並んだ様子など全国的にも類を見ない構造物です。多くの謎を持っている池辺寺ですが、百塔は最大の謎と言えるでしょう。

※万灯会…多くの灯かりを灯して供養する法会のこと

(熊本市文化振興課 芥川 太郎)

◆復元された塔

